中西美沙子 [教育コーディネーター]

大丈夫よ！お母さん！

子育てをたのしんで　～上手なスキンシップのとり方～

「懐かしい」。そんな情景を時折見ます。私が主宰する画廊・文章教室の脇に、浜松城の古い道が今も残っています。車の通らないその道を、赤ちゃんをおぶった女性が通ります。決まってお昼ごろに。肌寒い季節には、「ネンネコネ袢纏（ばんてん）」に包まれて。お祖母ちゃんが背負って通ることもあります。人の温もりが、きっと赤ちゃんを安心させるのだと、通るたびにこちらの心もあたたかくなります。私が「懐かしい」と感じるのは、「ネンネコネ袢纏」への郷愁だけではありません。「慈（いつく）しむ心」を思い出させるからです。

その女性は、ご近所の歯医者さん。父君と一緒に歯科医院を開業されています。午前の診療を終え、午後の診療までの休み時間に、そういう形で子どもと「スキンシップ」を図っているのでしょう。

不安な時代。幼い子どもは、母の温もりを直に感じることで心が安定します。そしてその「安定感」が、これから成長してゆく子どもたちの糧になるのです。生きることは、たのしいことや喜びと同時に、悲しみや苦しみなどの逆境も避けられません。そういう不可避な人生を私たちは生きています。心の「安定」は、長くその人の人生を支えることでしょう。幼児期には、限りなく子どもに愛情を注ぎたいものですね。もちろん叱ることも大切です。いけないことは「いけない」と、きっちり教えることも愛情ですから。しかし愛情の表現を勘違いするお母さん方が、時々います。着飾ったり、あちこち連れ回したり、何もかも与えることが愛情、と考えてしまうのかもしれません。

中西美沙子プロフィール

教育コーディネーター。執筆・講演活動の傍ら、文章教室「スコーレ」・画廊「キューブ・ブルー」（浜松市中区元城町）を主宰。文章教室「スコーレ」では、小学生から大人まで幅広い層を対象に、ただ書き方を教えるのではなく、「この時代をどのように生きるか」を見つめさせるような試みをしています。お問い合わせは、TEL.053-456-3770

ホームページは　中西美沙子　検索

一番大切なのは、「親の体温」を感じさせること。添い寝をしたり、抱っこしたりすることがあれば、それで充分です。短い時間であっても、工夫しだいでスキンシップの時間は取れるのです。この歯医者のお母さんのように。

仕事を持つ女性は、限られた時間の中でも、せいいっぱい子どもとの時間を大切にしたいですね。仕事も女性の生きがい。でもせっかく子どもをもうけたのなら、「子ども中心」の時間を積極的に作る必要があるでしょう。特に幼児期には。そこでたっぷりと愛情を与えることは、後々大きな意味を持ちます。「どうして子どもを産みたいと思ったのか」。もし、仕事と子どもとの板ばさみで苦しい時には、そんなことを自分に問いかけてみるのもよいかもしれません。耳を澄ませると、心の声が聴こえてくるでしょう。その時きっと、何が幸福かが見えてくるはずです。

秋日和の優しい光を浴びて、「乳母車」が通ります。今日は、お祖父ちゃんが孫をあやしています。そんな光景に、この子の人生はどんなに幸せで、そして豊かなものになるだろうと、人ごとながら嬉しさがこみ上げてくるのです。

「生まれる」という奇跡を「育てること」で、みながそれぞれの人生をたのしんでいるように私には見えるのです。